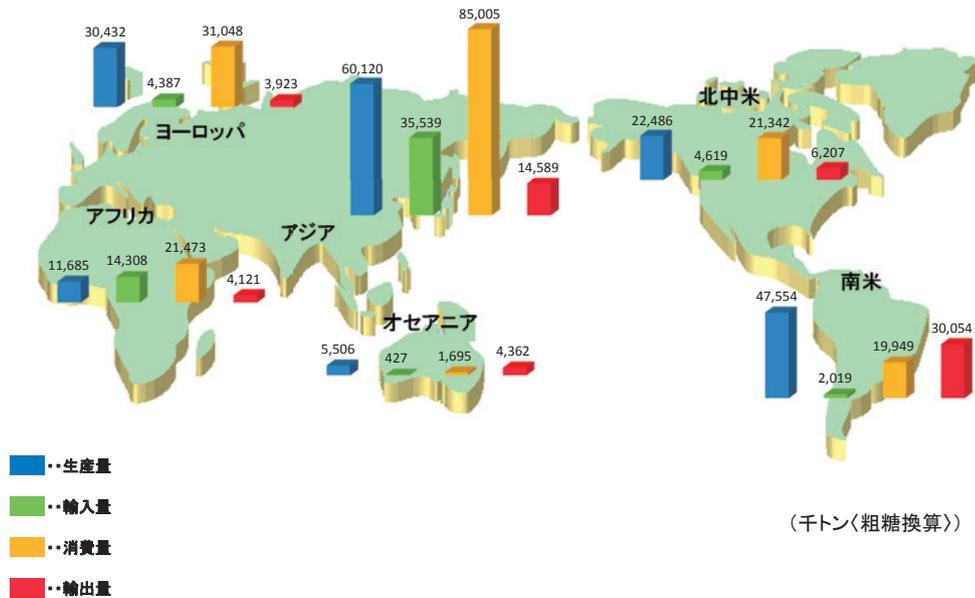


砂糖の国際需給

調査情報部 丸吉 裕子

1. 世界の砂糖需給 (2017年6月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2016/17年度予測値)



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, June 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2017年6月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億7778万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれている（表1）。これは、主にアジアや南アフリカ以外の地域で、生産量の増加が見込まれているためである。特に、前年度に在庫抑制などの要因から大幅減産となった

EUは、2017年9月末の生産割当廃止を見越して、生産量の増加が見込まれている。

一方、同年度の世界の砂糖消費量は、人口増加や経済成長に伴い、アフリカやアジアで堅調に推移していることから、1億8051万トン（同0.4%増）と見込まれ、前年度に続き生産量を上回ることが予想されている。

そのため、期末在庫率は前年度から2.8ポイント低下し、37.4%と見込まれている。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りとなっている。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,399	151,603	49,849	161,832	50,974	60,045	37.1
2012/13	64,157	184,162	59,150	171,679	61,545	74,245	43.2
2013/14	74,245	181,494	58,461	175,710	59,205	79,286	45.1
2014/15	79,286	180,704	58,414	178,554	59,538	80,313	45.0
2015/16	80,313	174,636	63,493	179,757	66,414	72,271	40.2
2016/17 (2017年3月予測)	71,005	177,958	58,575	181,009	61,027	65,503	36.2
2016/17 (2017年6月予測)	72,271	177,783	61,300	180,512	63,257	67,586	37.4

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, June 2017」

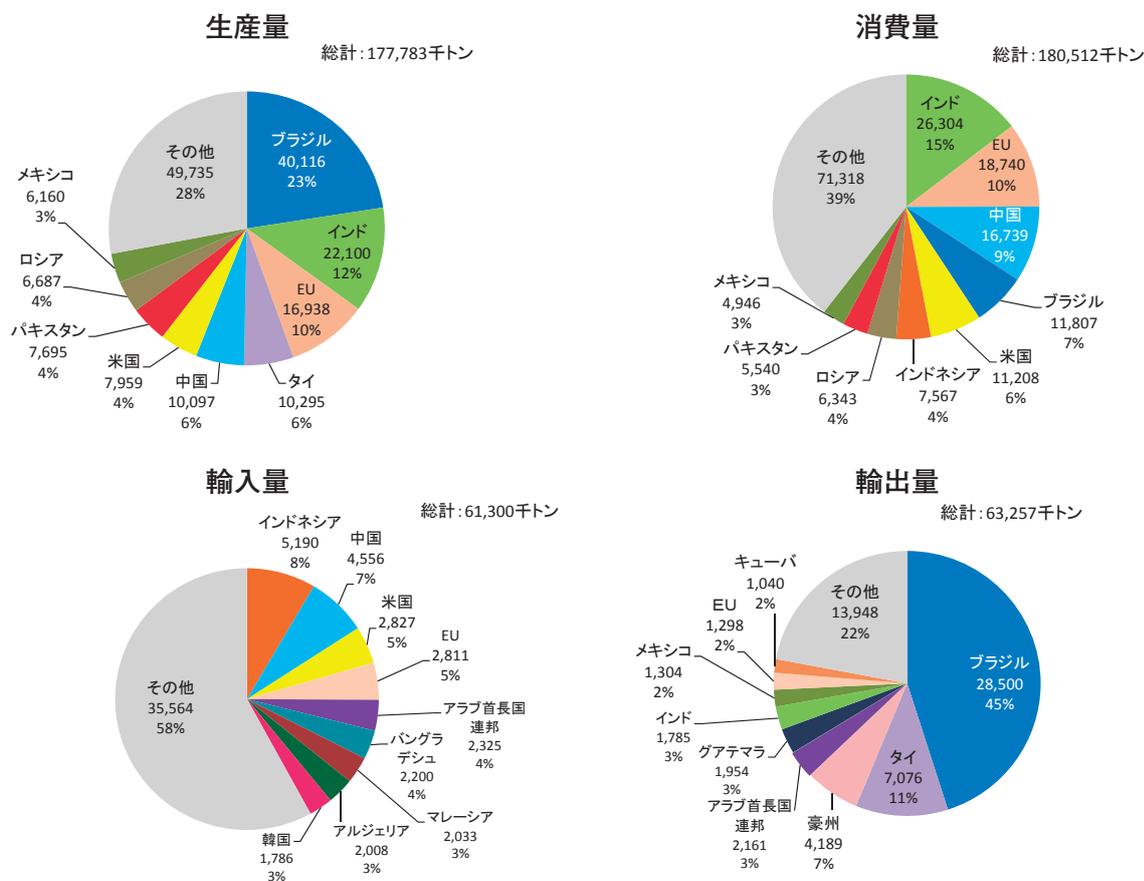
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

2. 主要国の砂糖需給（2016/17年度6月予測値）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量



資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, June 2017」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：主要国（上位9カ国）とその他を表示。

注3：円グラフのその他は総計から主要国の計を差し引いた数値。

【生産量】

2016/17年度（10月～翌9月）の主要国の砂糖生産量については、世界最大の生産国であるブラジルが、4012万トン（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれている（図2）。これは、前年度のサトウキビの収穫には、天候不順のため年度をまたいで行われていたものも多く含まれていたのに対し、今年度はその部分があまりないと見込まれ、サトウキビ収穫面積の減少が予測されているためである。さらに、インドは、主要生産地域であるマハラシュトラ州やカルナタカ州において干ばつの影響によるサトウキビ生産量の減少により、製糖工場が早期の操業終了を余儀なくされたことなどから、2210万トン（同19.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、中国は、主要生産地での増産により、1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。また、パキスタンは、綿花からサトウキビへの作付け転換の進展に加え、単収の向上に伴い、770万トン（同38.4%増）と大幅な増加が見込まれている。ロシアは、てん菜栽培面積の拡大や生育時期の天候に恵まれたことによる単収の向上から、669万トン（同16.0%増）と大幅な増加が見込まれている。

【輸入量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸入量を国別に見ると、消費量の増加が見込まれるインドネシアが519万トン（前年度比9.4%増）とかなり増加し、最大の輸入国になると見込まれている。一方、中国は政府による備蓄在庫の放出や輸入関税の引き上げにより、456万トン（同26.5%減）と大幅な減少が見込まれている。生産量の増加が見込まれている米国は283万トン（同6.5%減）とかなり減少し、生産量が増加し域内の砂糖価格が下落傾向にあるEUは281万トン（同25.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

【消費量】

2016/17年度の主要国の砂糖消費量については、最大消費国のインドが、国内砂糖価格の高騰などに伴い2630万トン（前年度比2.6%減）と見込まれている。また、第3位の中国は、トウモロコシの臨時備蓄政策の停止によるトウモロコシ価格の低下に伴う異性化糖需要の高まりから1674万トン（同3.1%減）と減少が見込まれている。

一方、インドネシアとパキスタンは、旺盛な国内需要によりそれぞれ757万トン（同8.2%増）、554万トン（同4.0%増）と、ともに増加が見込まれている。

【輸出量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸出量については、最大輸出国であるブラジルが、生産量の減少に伴い2850万トン（前年度比4.4%減）とやや減少が見込まれている。中国向けの減少などに伴い、タイは708万トン（同9.3%減）とかなりの減少が見込まれている。また、インドは、高騰する国内砂糖価格の安定化を図るため、政府が輸出関税の導入や、製糖企業に対し保有在庫数量に上限値を設定していることなどから、179万トン（同56.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

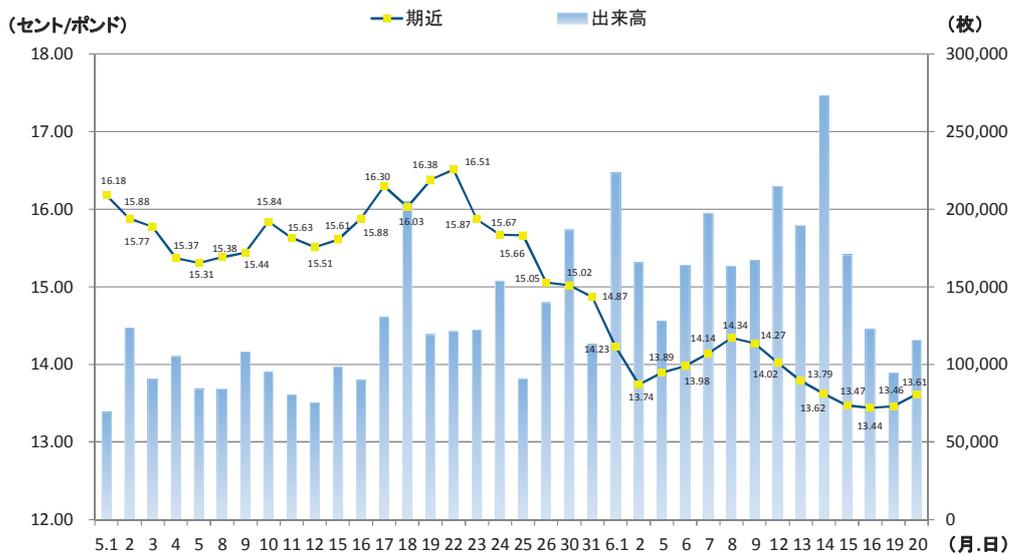
一方、メキシコとキューバは、砂糖の増産などに伴いそれぞれ130万トン（同2.6%増）、104万トン（同30.0%増）と、ともに増加が見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き (5/1 ~ 6/20)

～供給過剰予測などから、1ポンド当たり13.44セントまで下落～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

ニューヨーク粗糖先物相場（期近7月限）の2017年5月の推移を見ると、特段の上昇要因がない中、2017/18年度に世界の砂糖供給が過剰に転ずるとの見通しなどが下げ要因となって、2日に1ポンド当たり16セント台を割り込み、5日には同15.31セントとなった。その後は、ブラジル通貨レアルの対米ドル高やブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) (注) が発表した4月の砂糖の生産実績が前年度より減少したことが価格の下支えとなり、10日には同15.84セントに値を上げた。その後、12日にかけて、レアル安が進んだことから相場は下落したが、レアルが下げ止まったとみられたことやブラジルの降雨予報によるサトウキビ圧搾作業への遅れの懸念などから、22日には同16.51セントまで上昇した。しかし、翌日には、再びレアル安が進行したことが下げ要因となり、同15.87セントま

で値を下げた。その後も主要国の生産増による世界市場の供給過剰予測から続落し、31日には同15セント台を割り込み、同14.87セントまで落ち込んだ。

相場は、6月に入ってから大幅続落し、2日には同13.74セントまで値を下げ、2016年2月以来の安値を更新した。その後、再び世界の砂糖需給の緩和見通しが強まったことやブラジル中南部のサトウキビ圧搾実績の減少幅が、先月よりも縮小するよう修正されたことなどから、13日には同13.79セントとなった。16日には同13.44セントまで落ち込むも、20日には小幅ながら反発し、同13.61セントとなった。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年6月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4070万トン（同0.4%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれている。しかし、サトウキビの新植が進まず単収は低下したため、生産量は6億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合が増加したことに加え、製糖歩留まりが向上していることなどから、4053万トン（同15.2%増）とかなりの増加が見込まれている。こうした砂糖の増産に伴い、輸出量は過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少し、生産量は単収の向上から、6億4763万トン（同1.5%減）の減少にとどまると見込まれている。

砂糖生産量も、4070万トン（同0.4%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出

量については、国際的な砂糖の輸入需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

なお、UNICAが発表した2017年4～5月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は1億1184万トン（前年同期比20.9%減）、砂糖生産量は570万トン（同18.9%減）と大幅に減少している。これは、主に天候不順により収穫が遅れたためとみられる。同報告によると、エタノール生産量も、430万キロリットル（同26.5%減）と大幅に減少した。一方、輸出量も含めたエタノールの販売量は、383万キロリットル（同14.3%減）となった。このうち、含水エタノール^(注)の国内販売量は、価格が上昇したため、212万キロリットル（同16.8%減）と大幅に減少した。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、同月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.38リアル（83円〈5月末日TTS：1リアル=35円〉）と前年同月の同2.25リアル（79円）に比べ、上昇している。

現地報道によると、UNICAは6月上旬、中国政府が砂糖の輸入関税の引き上げを発表したことを受け、ブラジル政府に対し、WTOにパネル（小委員会）の設置を求めるよう要請した。

国内のエタノール生産量の減少などにより、米国からのエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAはエタノールの輸入関税（16%）の再

導入を政府に要請しており、北東部の砂糖エタノール製造企業も国内産業の保護を政府に求めている。しかし、政府は、関税を再導入した場合、国内のエタノール価格が高騰し、世界のエタノール貿易に影響を与えることから、慎重に検討することとしている。

また、政府は6月上旬、サトウキビ技術センター（CTC）が開発した遺伝子組み換えサトウキビ品種の商業利用を認可した。同品種は国内で被害の多い主要病害虫に対する抵抗性を有しており、遺伝子組

み換えサトウキビ品種の商業利用としては、世界初の認可となる。

（注）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

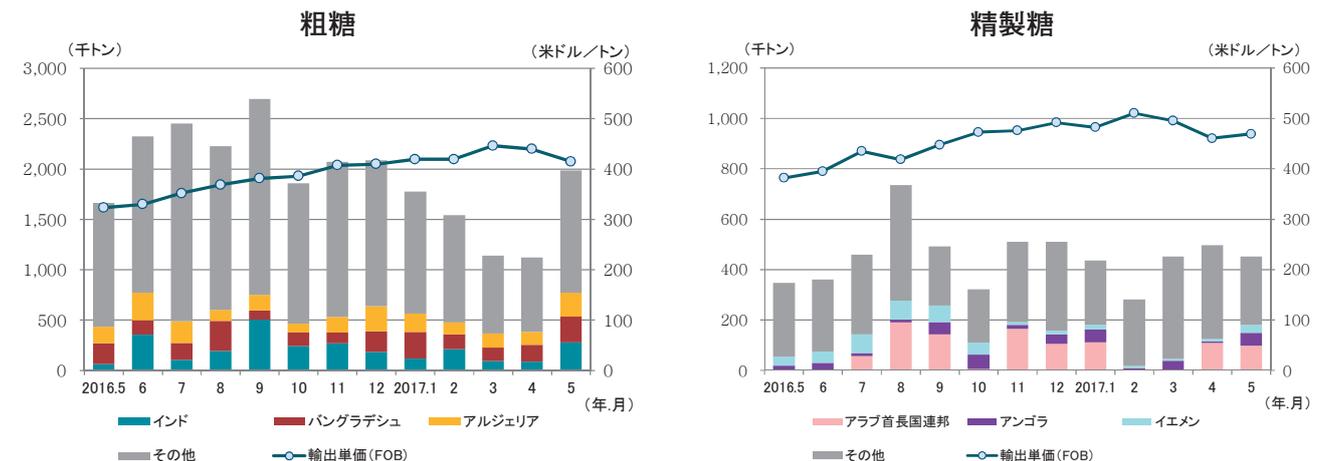
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (5月予測)	2017/18 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,049	9,049	4.6	8,839	8,839	▲ 2.3	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	657,184	657,184	▲ 1.3	647,626	647,626	▲ 1.5	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,534	40,534	15.2	40,700	40,700	0.4
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,700	11,700	▲ 0.8	11,800	11,800	0.9
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	906	906	11.5	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	7.7	7.7	12.4	9.4	9.4	21.0

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017」

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）

生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2210万トン（同19.3%減）

輸出量：179万トン（同56.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。さらに、砂糖生産量も、2210万トン（同19.3%減）と製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている（表3）。インド砂糖製造協会（ISMA）が3月初旬に発表した見通しによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることなどから、同年度の砂糖生産量は、精製糖換算で2030万トンと見込まれている。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図るため、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、2017年4月中旬には、貿易業者に対する砂糖在庫量の上限の設定

期限を2017年4月末から同年10月末まで延長することを公表した。これらにより、砂糖輸出量は、179万トン（同56.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、中央政府は4月、6月30日までに輸入される粗糖50万トンについて無税での輸入を許可することを公表した。当該措置は、干ばつにより砂糖生産量が大幅に減少し、消費量を下回ると見込まれること、また、マハラシュトラ州の製糖企業らによる再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどをを受けて実施されることとなった。一方で、50万トンを超えたり、7月以降に輸入されたりする砂糖については、2015年4月以降適用されている輸入関税（40%）が課せられることから、砂糖輸入量は、177万トン（同7.0%減）とかなり減少すると見込まれている。

なお、現地報道によると、ISMAは6月中旬、国際砂糖価格の下落に伴う砂糖の輸入増加により国産糖の需要が低下することを懸念し、中央政府に対し、砂糖の輸入関税を40%から60%まで引き上げるよう要請した。しかし、政府は、当面、その予定はないとの見解を示している。

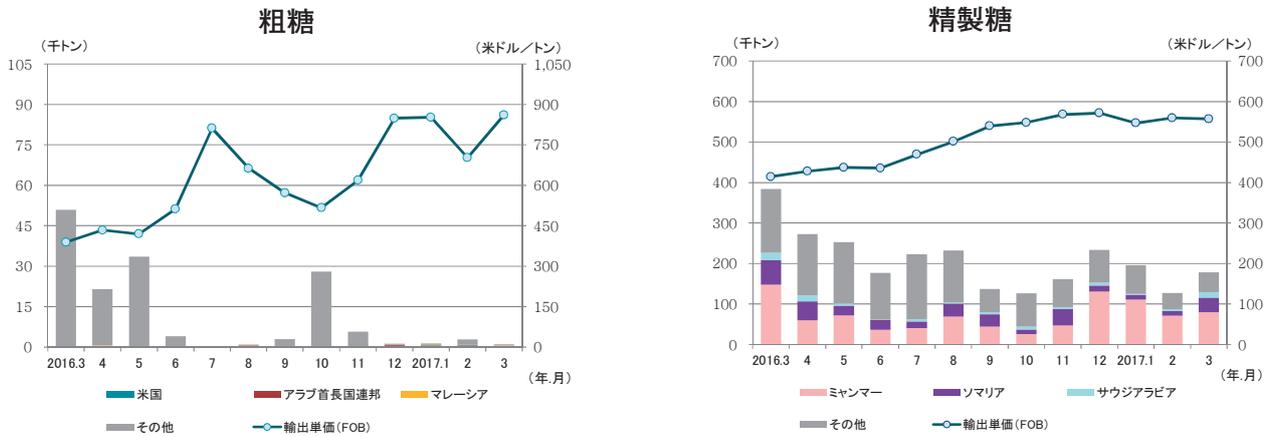
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,100	▲ 19.3
	輸入量	1,349	1,303	1,904	2,115	▲ 7.0
	消費量	26,295	27,842	27,011	26,304	▲ 2.6
	輸出量	2,742	2,608	4,105	1,646	▲ 56.5
	期末在庫量	8,223	9,692	7,851	4,116	▲ 53.7
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	15.6	▲ 52.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017」

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha(前年度比10.0%増)・15万ha(同10.0%増)
生産量：1億2652万トン(同7.9%増)・771万トン(同5.0%増)

【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1010万トン(同6.7%増)
輸入量：456万トン(同26.5%減)

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度(10月～翌9月)は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール(前年度比10.0%増)、生産量が1億2652万トン(同7.9%増)と、ともにかなりの増加が見込まれている(表4)。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育状況が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール(同10.0%増)とかなり増加し、生産量は771万トン(同5.0%増)とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1010万トン(同6.7%増)とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会(CSA)が発表した2016年10月～翌5月の生産実績報告によると、砂糖生産量は精

製糖換算で929万トン（前年同期比6.8%増）とかなり増加した（図4）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゅ糖が824万トン（同5.0%増）、てん菜糖が105万トン（同23.2%増）と、ともに増加したことによる。

さらに、中央政府は2016年10月以降、入札により備蓄砂糖を国内企業へ売り渡しており、1月時点で合計約65万トンが市場に放出された。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。

こうした中、中央政府は5月22日、2016年9月から実施した砂糖の輸入先国によるダンピング疑惑の調査（注1）の結果を踏まえ、2017年5月22日から2020年5月21日までの3年間、WTO協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠

外で輸入される砂糖の関税率を、現行の50%から95%まで引き上げることを公表した（注2）。このため、砂糖輸入量は、456万トン（前年度比26.5%減）と大幅な減少が見込まれている。枠外関税率は、毎年度5%ずつ引き下げられる予定であるが、ミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入量の増加が懸念されている。

（注1）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして実施した調査であり、対象は、輸入量が急増した2011年以降で、粗糖の上位輸入先国であるブラジルおよび豪州ならびに精製糖の主要輸入先国である韓国などが対象国となっていた。

（注2）開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

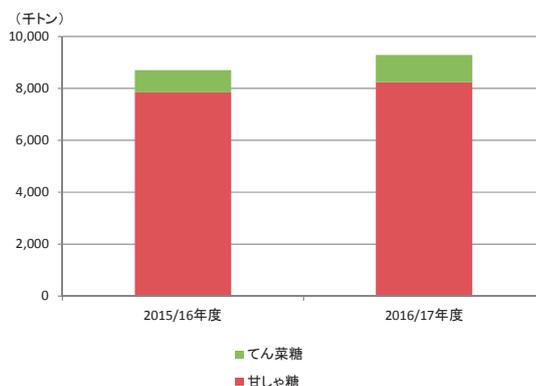
表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	9,916	10,097	6.7
	輸入量	4,054	5,354	6,199	4,520	4,556	▲ 26.5
	消費量	16,150	16,600	17,283	16,739	16,739	▲ 3.1
	輸出量	51	64	167	85	83	▲ 50.2
	期末在庫量	7,141	7,305	5,513	3,125	3,344	▲ 39.3
	期末在庫率	44.2	44.0	31.9	18.7	20.0	▲ 37.4

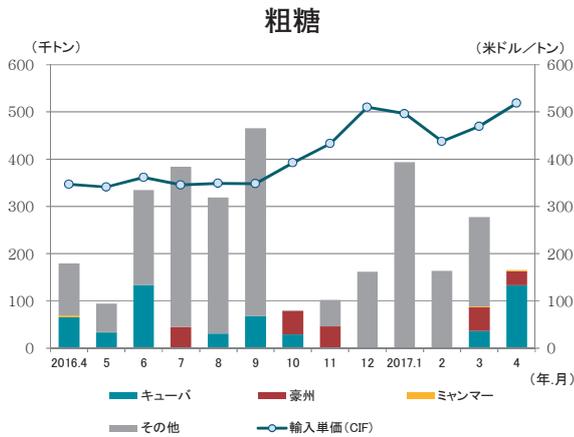
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017」

図4 中国の砂糖生産実績（10月～翌5月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1694万トン（同12.8%増）

輸入量：281万トン（同25.0%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっていた一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られていた。記録的な生産量となった前々年度に比べ、春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれ

ているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖の増産や域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、281万トン（同25.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

主要生産国では生産割当廃止後の砂糖の増産を目指し、2017/18年度のてん菜収穫面積は、フランスでは48万ヘクタール（同18.8%増）、ドイツでは37万ヘクタール（同19.1%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。しかしながら、^{はしめ}播種後に低温や降雨不足に見舞われ、両国のてん菜生産量に与える影響が懸念されている。

表5 EUの砂糖需給の推移

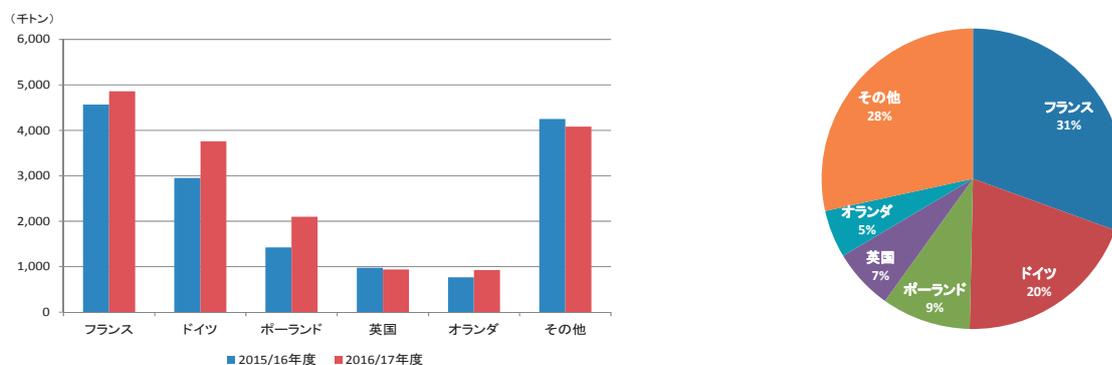
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	16,938	12.8
	輸入量	3,944	3,456	3,750	2,720	▲ 25.0
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,740	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,300	▲ 13.8
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	8,753	▲ 3.2
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	46.7	▲ 3.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016年12月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2017年6月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

豪州

2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比3.2%増）

生産量：3550万トン（同1.9%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：523万トン（同3.3%増）

輸出量：400万トン（同3.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はやや増加するも 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は523万トン（同3.3%増）とやや増加が見込まれている。一方、輸出量は中国向けの減少などに伴い、400万トン（同3.8%減）とやや減少が見込まれている。

サトウキビ生産者団体のCanegrowersは6月

13日、2017/18年度以降の新たな輸出契約に関するクイーンズランド（QLD）州砂糖公社（QSL）^{（注）}との交渉が難航していた製糖企業1社傘下の生産者が、同社とのサトウキビ供給契約の締結をおおむね完了したと発表した。これにより、2017/18年度における製糖企業と生産者とのサトウキビ供給契約は、シーズン開始までにほぼ全て整う見通しとなった。

（注） QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,500	1.9	
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,067	5,233	5,233	3.3
	輸入量	159	170	76	110	110	45.3
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	1,355	0.4
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,995	3,995	▲ 3.8
	期末在庫量	1,162	1,074	716	708	708	▲ 1.0
	期末在庫率	86.3	79.6	53.0	52.3	52.3	▲ 1.4

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017]

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）

生産量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）

輸出量：708万トン（同9.3%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、 輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収の低下が見込まれることから、生産量は9300万トン（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれる（表7）。

しかし、砂糖生産量は、長引く干ばつの影響があったものの、製糖歩留まりの向上が見られることなどから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、708万トン（同9.3%減）とかなりの減少が見込まれている。

タイ製糖協会によると、5月3日までに2016/17年度のサトウキビの圧搾が終了し、同年度のサトウキビ圧搾量は9295万トン（同1.2%減）とわずかに減少した。干ばつの影響によるサトウキビの減産に伴い、サトウキビ圧搾量が前年度比で8%減少した工場も見られた。

政府は現在、砂糖産業関連法の改正^(注1)に向けた手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当^(注2)、政府が設定している国内砂糖価格は廃止されるとみられる。

現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^(注3)は5月中旬、各製糖企業に対し、国内供給用に、生産量の一定割合を常に在庫として確保するよう求めること、今後は、OCSBが国際価格を基に算出した基準価格を発表することなど、改正の方向性について関係者間で合意に達したと明らかにし、改正法は11月までに施行される見込みであるとした。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金^{ほてん}や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

(注3) タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省（製糖関係）、農業協同組合省（原料作物関係）、商務省（砂糖の売買関係））とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

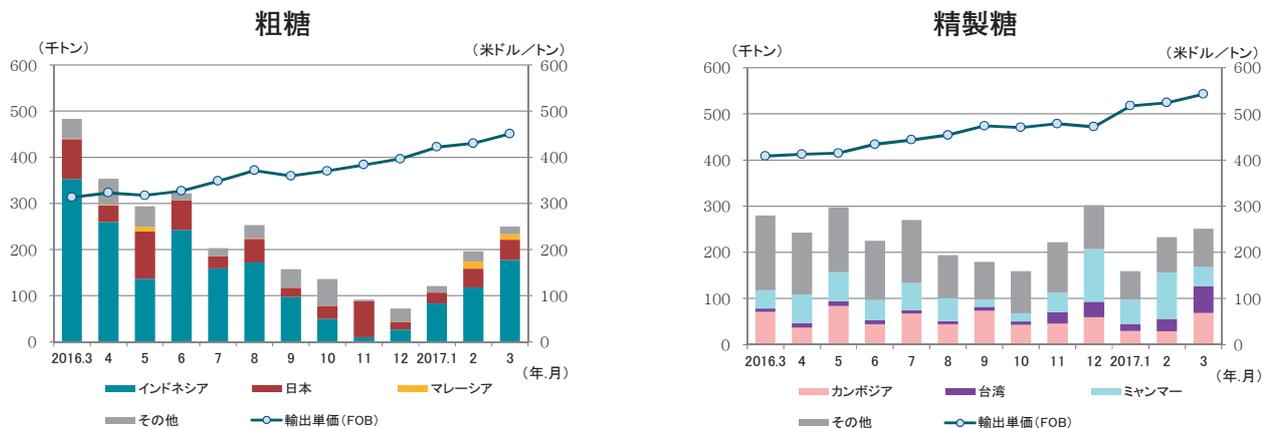
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (5月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	93,000	93,000	▲ 1.1
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,300	2.7
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,220	▲ 9.3
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,087	▲ 6.2
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	116.8	120.8

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017」

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

グアテマラ

2016/17年度（11月～翌10月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度比1.5%増）

生産量：2415万トン（同1.3%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：285万トン（同3.9%減）

輸出量：200万トン（同3.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともにやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビ収穫面積は、26万ヘクタール（前年度比1.5%増）、生産量は2415万トン（同1.3%増）と、ともにわずかな増加が見込まれている（表8）。しかし、

製糖歩留まりが低下していることから、砂糖生産量は、285万トン（同3.9%減）とやや減少するものと見込まれている。

これに伴い、輸出量も200万トン（同3.5%減）とやや減少するものと見込まれている。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (3月予測)	2016/17 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	262	262	252	256	256	1.5
サトウキビ生産量	26,335	26,335	23,844	24,151	24,151	1.3
砂糖	生産量	2,949	3,130	2,966	2,950	▲ 3.9
	輸入量	1	1	1	1	0.0
	消費量	910	900	900	900	0.0
	輸出量	1,993	2,411	2,066	2,050	▲ 3.5
	期末在庫量	490	310	311	312	▲ 14.0
	期末在庫率	53.8	34.4	34.6	34.7	▲ 14.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, June 2017」